

令和5年度 海外派遣学生状況

No	プログラム名称	プログラム目的・概要	成果	派遣国名	派遣期間	所属学部	人数	単位取得者数
1	交換留学 (4月派遣)	協定校の学部や大学院で、本学で専攻している分野に関連のある科目を、留学先の母国で受講し、専門科目の知識習得を目的とする。	留学先の母国で授業を受講することで、参加した多くの学生が専門科目の知識を習得することができた。また、授業だけでなく日常生活の中でも現地の人々と留学先の母国でコミュニケーションを取る経験ができたことで、語学力が向上した。	ドイツ	令和5年4月～令和5年9月	人文学部	4	4
2					令和5年4月～令和6年3月		6	6
3	交換留学 (8月派遣)	協定校の学部または大学院で、主に本学で専攻している分野に関連のある科目を受講し、専門科目の知識習得を目的とする。	令和6年7月帰国予定	イギリス フランス	令和5年8月～ 令和6年7月	2	令和6年度前期に 単位認定見込み	
4	交換留学 (9月派遣)	協定校の学部や大学院で、本学で専攻している分野に関連のある科目を、留学先の母国で受講し、専門科目の知識習得を目的とする。	留学先の母国で授業を受講することで、参加した多くの学生が専門科目の知識を習得することができた。また、授業だけでなく日常生活の中でも現地の人々と留学先の母国でコミュニケーションを取る経験ができたことで、語学力が向上した。	韓国 フランス ベルギー	0	0	0	
5					0			
6					0			
7					0			
8	交換留学 (10月派遣)	協定校の学部または大学院で、主に本学で専攻している分野に関連のある科目を受講し、専門科目の知識習得を目的とする。	令和7年1月帰国予定	ドイツ	令和5年10月～令和6年3月 令和5年10月～令和6年9月	2	2 0 ※派遣2名とも留学中	
9	交換留学 (2月派遣)	協定校の学部または大学院で、主に本学で専攻している分野に関連のある科目を受講し、専門科目の知識習得を目的とする。	令和7年1月帰国予定	韓国 中国	令和6年2月～ 令和7年1月	7	令和6年度後期に 単位認定見込み	
10	英語圏文化研修	英語圏学生を対象に開講されている選択科目であり、カルチャー大学での研修で生きた英語を身につけるとともに、異文化を体験することで国際的な視野を広げる。	4週間の語学研修では、自分のレベルに合ったクラスに入ることに伴い、適切な指導のもと総合的な英語運用能力を上げ、かつ、ホームステイ先の家族とコミュニケーションをとることに伴い、口頭表現や日本とは異なる生活習慣などを学ぶことができた。また、世界各国からの留学生と交流する機会を通じて、他国の様々な文化に興味を持ち、帰国後も英語のスキルアップや異文化理解に対する意欲を継続させている。	カナダ	令和5年8月5日～ 令和5年9月3日	23	23	
11	ドイツ語圏現地研修	ドイツ語学科2年次生以上の選択科目であり、事前研修、現地研修（協定校での語学研修および文化体験）、事後研修（報告書作成）を受講することで国際感覚を醸成する。	令和5年度ドイツ語圏現地研修に参加した35名の学生たちは、約1か月間の語学コースおよび課外活動をおこなって、ドイツ語能力の向上と異文化理解の深化に努めた。現地でのドイツ語圏での生活は、学生たちに事前学習をきめ細かく指導する機会も与えただけではなく、言語コミュニケーションの可能性や世界のアクチュアルな諸問題への関心も喚起し、研修後の事後学習および将来の継続的学習につながった。	ドイツ	令和5年8月5日～ 令和5年9月6日	35	33	
12	フランス語圏現地研修	フランス語学科2年次生以上の選択科目であり、協定校での語学研修および異文化体験を通して、国際的な視野を広げることが目的とする。	協定校での語学研修を通してフランス語能力を向上させたと同時に、課外活動の歴史的建造物の訪問により、現地の歴史を肌で感じることもできた。他の国からの研修生、およびホームステイ先の家族とのコミュニケーションは、異文化交流を体験する機会となった。日常生活で現地ネイティブと意思疎通を行う困難を乗り越えた経験は、学生達の成長につながり、以上を通じて国際的な視野を広げるといふ本プログラムの目的を果たすことができた。	フランス	令和6年2月24日 令和6年3月15日	23	23	
13	タンデム学習	中国の協定校の日本語学科で学ぶ学生及び中国語を学んでいるLAの学生を対象とし、インターネットを介して互いの言語や文化を学び合う交流プロジェクトである。	インターネットを通じ、中々の大学生が交流し、互いの言語や文化について、学生同士の興味関心に沿って学びを深めることができた。	中国	令和5年10月 令和5年12月 ※学生によって期間は異なるため、 上記期間は参加者全体の期間	14	単位認定の プログラムではない	
14	国際コミュニケーション・法政事情Ⅱ 国際コミュニケーション海外研修	経済法学科1年次生を対象とする「国際コミュニケーション・法政事情Ⅱ」「国際コミュニケーション・法政事情Ⅲ」「国際コミュニケーション海外研修」として実施。要入先であるシアトル大学において自米関係や米国の司法制度等の講義を受講するとともに、現地の公的機関や企業を訪問する。事前学習で準備した英語によるインタビューやプレゼンテーション、ディスカッションを行ったり、学生が二人ずつホームステイを体験することにより、アメリカの文化を学ぶといった学生自らが自分の知識と英語力をフルに活用して課題に取り組む実践的内容となっている。	参加学生は、アメリカの法制度や政治経済について、シアトル大学ロースクールで英語での講義を受講するとともに、企業や機関を訪問してインタビューを行った。インタビューで得られた情報と国内で準備した資料を組み合わせて、英語でプレゼンテーションとディスカッションを実施した。研修後のフォローアップとして、担当教員の指導の下、研修成果について各自、各自が振り返り、成果を定着させる必要な取組みとなる研修成果報告書を作成した。	アメリカ	令和5年8月15日 令和5年8月30日	10	9	
15	アジア法セミナーⅠ (アジア太平洋法政事情)	法学部2年次生以上の専門科目「アジア法セミナーⅠ（アジア太平洋法政事情）」として実施。研修内容は、ビクトリア大学ウェリントンでの講義（現地の法政事情やマオリ族の問題等）、公的機関（裁判所や政府機関等）や企業を訪問し、英語でインタビュー、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。現地において、自身の判断力と英語力、事前学習で得た知識を実践的に総合的に活用することで、グローバル人材への強い動機付けを図り、日本の次世代リーダーを育成することを旨とする。	参加学生は、ニュージーランドの法制度・政治・経済やマオリ族の問題など、現地において自らの知識と英語力を駆使し、英語でのプレゼンテーションや公的機関・企業への訪問・インタビューを行う等、プログラムを充実させた。また、学生一人ずつホームステイを体験したことに伴いニュージーランドの文化を学んだ。研修後、担当教員の指導のもと、参加学生による日本語および英語の現地研修報告書が作成された。	ニュージーランド	令和6年2月1日 令和6年2月16日	12	12	
16	経済学ジョイントコースA	協定校・韓国ウルサン大学との相互交流授業の一環で本学の学生が相手校を訪問して講義の受講、ハス授業、ディスカッションなどを行い、自校の経済について理解を深めた。	美蘭に韓国を訪れてその経済状況に触れることは何よりの学習となった。英語でコミュニケーションを取り友好を深めることができた。	韓国	令和5年8月4日 令和5年8月11日	28	32※ (オンライン等の受講者を含む)	
17	経済学ジョイントコースB	協定校・静宜大学との相互交流授業の一環で本学の学生が相手校を訪問して講義の受講、ハス授業、ディスカッションなどを行い、日台経済の関わりについて理解を深めた。	美蘭に台湾を訪れてその経済状況に触れることは何よりの学習となった。英語でコミュニケーションを取り友好を深めることができた。	台湾	令和5年9月2日～ 令和5年9月5日	24	29※ (オンライン等の受講者を含む)	
18	海外交流セミナー (オレゴン大学)	アメリカ・オレゴン大学において、英語の集中講義はもちろん、大学生に必要なペーパー作成やプレゼンテーションスキルをオレゴン大学の教授陣から英語で学ぶことで英語力を向上、同時に異文化共生を体験することを目的とする。	英語のリスニングやスピーキングのスキル向上はもちろんのこと、様々な文化が交わる米国の大学生生活を体験したことにより、受講生全員の帰国後の大学生活や授業への取り組み方に顕著な変化が見られた。特に、自らの意見を形成するために論理的に学ぶ姿勢や、ディスカッションにおいて異なる意見を尊重する態度、そして堂々としたプレゼンテーション能力の習得などが自覚ましい成果として挙げられ、今回の海外派遣の最大の成果であるといえる。	アメリカ	令和5年8月30日～ 令和5年9月13日	17	17	
19	2023年度海外語学研修 (シアトル大学派遣)	協定校や周辺施設での講義・アクティビティを通して、留学先の母国や歴史・文化を学ぶことにより、語学力の向上と異文化理解の深化を図ることを目的とする。	参加学生の語学力が向上し、異文化理解が深まった。	アメリカ	令和5年5月8日～ 令和5年5月18日	1	0	
20	令和5年度交換留学 (セントラルランカシャー大学)	協定校の学部で、英語で授業を受講し、専門科目の知識習得を目的とする。	英語力の向上および、専門科目の知識習得ができた。	イギリス	令和4年9月1日～令和5年7月1日	スポーツ科学部	1	1
21	海外研修 (順天大学)	初・中級レベルの韓国語学習を中心に、文化、歴史、自然などの知識を修得するとともに、市民や学生との交流を通じて国際感覚の醸成を図ることを目的とする。	初・中・上級レベルの韓国語学習を中心に、文化、歴史、自然などの知識を修得し、交流を通じて国際感覚を養うことができた。	韓国	令和5年8月5日～令和5年8月26日	人文学部、法学部、 商学部、理学部、 工学部	19	単位認定の プログラムではない
22	海外語学研修 (ハノイ大学)	会話力、文法、読解等、総合的な語学力の向上を図るとともに、見学研修を通じて伝統、文化、歴史を学び、多角的視点から異文化を理解し得る国際感覚を醸成することを目的とする。	会話力、文法、読解等、総合的な語学力の向上を図り、多角的視点から異文化を理解し得る国際感覚を養うことができた。	ベトナム	令和5年8月22日～令和5年9月2日	人文学部、商学部、理 学部	5	単位認定の プログラムではない
23	海外語学研修 (シアトル大学)	会話力、文法、読解等、総合的な語学力の向上を図るとともに、見学研修を通じて伝統、文化、歴史を学び、多角的視点から異文化を理解し得る国際感覚を醸成することを目的とする。	会話力、文法、読解等、総合的な語学力の向上を図り、多角的視点から異文化を理解し得る国際感覚を養うことができた。	アメリカ	令和5年8月29日～令和5年9月11日	人文学部、法学部、 経済学部、商学部、 商学部第二部、理学部、 工学部、薬学部	18	単位認定の プログラムではない
24	海外研修 (ワウツェンパン大学)	協定大学での研修を中心に文化、歴史、自然、言語等の知識を修得させ、かつ、市民や学生との交流を通じて国際感覚の醸成を図る。	文化、歴史、自然、言語等の知識を修得させ、市民や学生との交流を通じて国際感覚の醸成を図ることができた。	アメリカ	令和6年2月17日～令和6年3月16日	人文学部、法学部、 経済学部、商学部、 工学部、薬学部	16	令和6年度前期に 単位認定見込み
25	海外研修 (グリフィス大学)	協定大学での研修を中心に文化、歴史、自然、言語等の知識を修得させ、かつ、市民や学生との交流を通じて国際感覚の醸成を図る。	文化、歴史、自然、言語等の知識を修得させ、市民や学生との交流を通じて国際感覚の醸成を図ることができた。	オーストラリア	令和6年2月17日～令和6年3月15日	人文学部、法学部、 経済学部、商学部、 工学部、 医学部、薬学部	21	令和6年度前期に 単位認定見込み
26	海外語学研修 (揚州大学)	中国の協定校である揚州大学において、会話力、文法、読解等、総合的な語学力の向上を図るとともに、見学研修・文化研修を通じて伝統、文化、歴史を学び、多角的視点から異文化を理解し得る国際感覚を醸成することを目的とする。	会話力、文法、読解等、総合的な語学力の向上を図るとともに、見学研修・文化研修を通じて伝統、文化、歴史を学び、多角的視点から異文化を理解し得る国際感覚を醸成することができた。	中国	令和6年2月25日～令和6年3月10日	人文学部、商学部第二 部、薬学部	20	単位認定の プログラムではない